



空気は何からできているの

おもにちっ素と酸素からできている

空気は、いろいろな気体が混じってできています。いちばんたくさんふくまれているのは、ちっ素で、次が酸素です。そのほかに、二酸化炭素やアルゴン、ネオン、ヘリウムなどが混じっています。

空気の約78パーセントはちっ素、約21パーセントは酸素、残りはそのほかのものが少しずつふくまれています。

酸素と二酸化炭素

酸素は人間だけでなく、生物が生きていくために、とても大切なものです。植物は、光合成のときに、二酸化炭素を取り入れて、酸素を出しています。

光合成とは、緑色の葉(葉緑素をもつ)の植物が太陽の光を利用して、二酸化炭素と水から炭水化物(でん粉など)をつくり出すことです。植物が光合成をしているので、大切な酸素はなくなるのです。

二酸化炭素は物を燃やしたときや、車の排気ガス、工場のけむりなどから出ています。最近では、空気中の二酸化炭素の量が多くなって、地上の熱がにげにくくなり、地球が暖かくなってきているなど、いろいろと問題になっています。(監修・小川 格)

